

令和4年度学校評価結果による課題と改善策（まとめ）

課題1	<p>○ICTの活用</p> <p>昨年度と比較して、今年度は、授業の中でICTを活用して授業を行っている姿が多く見られるようになった。しかし、保護者においても活用している様子を評価している方もいるが、なかなか活用している姿が見えづらいようである。</p>
改善策	<p>○活用時の様子を撮影し、懇談の場で紹介してはどうか。</p> <p>○授業参観や学校公開週間で、活用場面を見ていただくと良いのではないか。授業の中で使用する場面を設定する。…7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用している場面をスライドショーにして授業参観等で流す。 ・授業参観一覧表にICT活用授業はICTなどのマークを入れておき、強調しておく。 <p>○学級だより、通知表、HPへの掲載。コンピューター室前掲示板への学習の様子への掲示。…7</p> <p>○HPのQRコードを様々なところにいれ、HPを見てもらう機会を増やす。</p> <p>○通学生にiPadを持ち帰って行える宿題・課題を出す。…2</p> <p>○ICT支援員さんによる講習会。</p> <p>○教職員の普段の活用事例を集約して紹介する。</p> <p>○1人1台端末を購入している高1については速やかに運用を開始し、取組について保護者に伝えられるようにしたい。</p>
課題2	<p>○公共交通機関の利用</p> <p>昨年度に比べて今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大があった割に、公共交通機関を利用する回数は各学部とも増えている。保護者は、児童生徒の将来の生活のために必要であると考えており、今よりもさらに公共交通機関の利用を望んでいるという意見が多かった。</p>
改善策	<p>○年間指導計画へ校外学習、宿泊学習、修学旅行を位置付ける際に、公共交通機関を利用した活動を積極的に設定する。回数については、事務と相談する。…6</p> <p>○在籍期間に毎年積み重ねていって、公共交通機関利用のマナーや乗車の仕方を習得していくと考える。保護者は1年間に何度も使ってほしいと考えているかもしれないが、若松、猪苗代、郡山で学習活動をする際に使うと回数は限られる。利用するために学習活動を考えるというのは違います。改善というより理解いただきたいことです。</p> <p>○生活、社会の教科で実際に利用も含めた学習内容を取り入れていく。</p> <p>○地域的に公共交通機関を利用するまでが大変（駅が遠い、バス停が近くにない）なので、頻繁に利用は難しいと思うが、小中高と段階的にどのように利用するか、また実際にどのように利用しているか示すことができるとよい。さらに保護者にも協力してもらえよう働きかける。…2</p> <p>○スクールバスを使いながら公共交通機関の利用に向けた学習を展開する。</p> <p>○実習等で自力通学を促す。…2</p> <p>○保護者の協力も必要であるため、学校だけではなく家庭でも行うべき役割として意識してもらえよう伝えていく必要がある。…3</p> <p>○校内では年間の行事等を考えながら学級ごとに計画していると思う。</p>

	<p>○小学部の児童はまず毎日の通学バスの活用を検討する（ばんだい荘生は、実態に応じた別の方法）。中学部や高等部の生徒は、実態に応じて行事や校外学習等の際、調べ学習などで発車時刻や料金を調べ、主体的に公共交通機関を利用する体験の場面を設定する。</p> <p>○小学部から高等部まで、実態に応じた生活科、職業・家庭科、社会科、国語科、算数・数学科などにおける個別の指導目標に関して、個に応じて公共交通機関の利用に関わるであろう知識・技能・思考・判断・表現・態度や公衆マナーや道徳などの基礎となる力の指導も重要であるが、保護者の理解にはつながりにくいかもしれない。次年度より、生徒指導部、通学指導係で、卒業までに身につけさせたい交通機関の安全な利用の知識・技能などについてしおりの作成などで扱うことも必要になるかもしれない。</p> <p>○ばんだい荘で学校の意向を受け入れてもらえ、外出できる機会が増えてきたことは喜ばしい。それだけに外出によるコロナ感染は絶対に避けたい。感染リスクを最小限にする校外学習計画を立てることが必然となる。</p> <p>○翁島駅や猪苗代駅への移動費について後援会費を活用できるとよい。</p>
課題3	<p>○地域の方々の理解と協力を得て、教育活動の充実</p> <p>教員、保護者、学校評議員より地域との連携をもっと進めていかなければならないという意見があった。実際に、地域と連携した教育活動は少なく、今後、開かれた教育課程を実践していくためにも、地域との連携は必須である。</p>
改善策	<p>○授業において、児童生徒の学びを深められるよう、地域の方を講師として招くことができるとうい。各教科等の特色を踏まえて回数や内容等の検討を事前にしっかり行う必要がある。…2</p> <p>○猪苗代町広報誌へのPR。行事紹介等載せてもらう。町役場との連携。…2</p> <p>○地域での活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部クリーン班…駅・店・会社の清掃。農芸加工班…花壇づくり、小中学部…町の店舗利用など、学校の存在のPR。 <p>○地域の方を講師に。…4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部農芸加工班…農家、菓子店など、スキーマの指導、磐梯山噴火記念館の方に来ていただき防災教育、ボランティア教育、福祉教育、キャリア教育 <p>○地域や学校での製品販売活動や交流及び共同学習など、児童生徒が地域で活動や交流できる機会を増やしていく。…2</p> <p>○いなまつりに地域の方を招く（感染症にもよるが）。</p> <p>○交流及び共同学習の見直し。これまでの実施の仕方でのよいか、もう一度考えてみる。</p> <p>○作業製品の地域とのコラボレーション。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農芸加工班で作ったものをどこかで加工してもらう。・リサイクル班で作った紙をラベルにしてもらうなど。 <p>○社会とのつながりの中で子どもたちがよりよい生き方や働き方について学べると良いので、特別活動や総合的な学習の時間、職業家庭科等での取り扱いが鍵になるのではないかと。</p> <p>○各教科、総合的な学習（探究）の時間の年間指導計画を立てる際に、「地域の方々とつながり」「専門家からのレクチャー」などを意図的に盛り込むようにする（感染リスクは最小に抑えた上で）。…2</p>